

大阪教育大学 環境報告書 2010



2010. 4 太陽光発電システムが完成



もくじ

学長挨拶	1
大阪教育大学環境報告書2010作成にあたって	2
大学概要	3
事業概要	5
環境方針	6
環境マネジメント組織	7
環境配慮実施計画	8
マテリアルバランス	12
環境負荷データ	13
環境マネジメント活動の推進	15
配置図(柏原キャンパス)	25

環境報告書の公表にあたって（平成22年9月）



学長 長尾 彰夫

昨年末、デンマークのコペンハーゲンで開催されました気候変動枠組条約第15回締約国会議(COP15)において、世界全体の長期目標として、産業化以前からの気温上昇を2度以内に抑制することが話し合われました。またその目標に向け、各国は温室効果ガス削減の排出目標を示し、我が国においても2020年までに、1990年比25%の温室効果ガス削減の目標を表明しております。さらに先進国が、途上国の温暖化対策を支援することも話し合われ、先進国のこの問題に対する責任は大きいものがあります。

このように、世界中、特に、先進国で温室効果ガス削減について対策が急がれる中、日本では太陽光発電等の自然エネルギーを利用した発電設備の大量普及、ガソリン車よりハイブリッド車、電気自動車への変換等具体的な施策が提案されており、低炭素社会の実現に向かって動き始めようとしています。大阪教育大学でも大容量の太陽光発電設備設置に着手し、今年度より稼働しています。この設備による自然エネルギー発電に加え、大学構成員の環境意識の向上により、温室効果ガス排出量削減等環境負荷削減にできるだけ貢献したいと考えております。

特に、本学は教員養成系大学として環境について関心を持ち、理解できる人材を育成することが使命であり、卒業生が直接又は間接的に環境問題に関わっていくことが重要になります。

環境と教育の関わりがますます大きくなっている中、本学の果たす役割は重要であります。

平成18年度に初めて大阪教育大学環境報告書を公表し、今回5度目の公表となりますが、大阪教育大学環境報告書2010は大阪教育大学柏原キャンパスの環境についての現状及び目標を報告するものです。

本学は、省エネ等環境負荷削減の活動を行っておりますが、環境管理の取り組みはまだまだ十分であるとは言えません。今後、学生等に対する教育も含め、環境に対する取り組みをますます充実させていく所存であり、本報告書が学生、教職員に対し環境管理の指標となれば幸いです。

大阪教育大学環境報告書2010作成にあたって

方針

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」の施行により、平成18年度より大阪教育大学では、環境報告書を作成、公表してまいりました。大阪教育大学は平成16年4月に法人化し、大学の独自性が問われる中、省エネの取り組み、古紙のリサイクル等環境負荷削減に取り組んでまいりましたが、なお一層の取り組みが必要であると考えております。大阪教育大学環境報告書2010は、本学の教職員、学生、本学への入学を希望されている方々、保護者及び近隣住民に対して、平成21年度の大阪教育大学の環境についての現状を報告するものとして作成いたしました。

報告書の対象範囲

大阪教育大学柏原キャンパス

報告書の対象期間

平成21年度（2009年4月～2010年3月）

参照ガイドライン等

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に基づく「環境報告書の記載事項」

環境省「環境報告書の記載事項等の手引き」

環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」

発行年月

平成22年9月

次回発行予定

平成23年9月



お問い合わせ先

国立大学法人大阪教育大学

管理部施設課企画係

電話：072-978-3333

mail: sisetuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

URL: <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/>

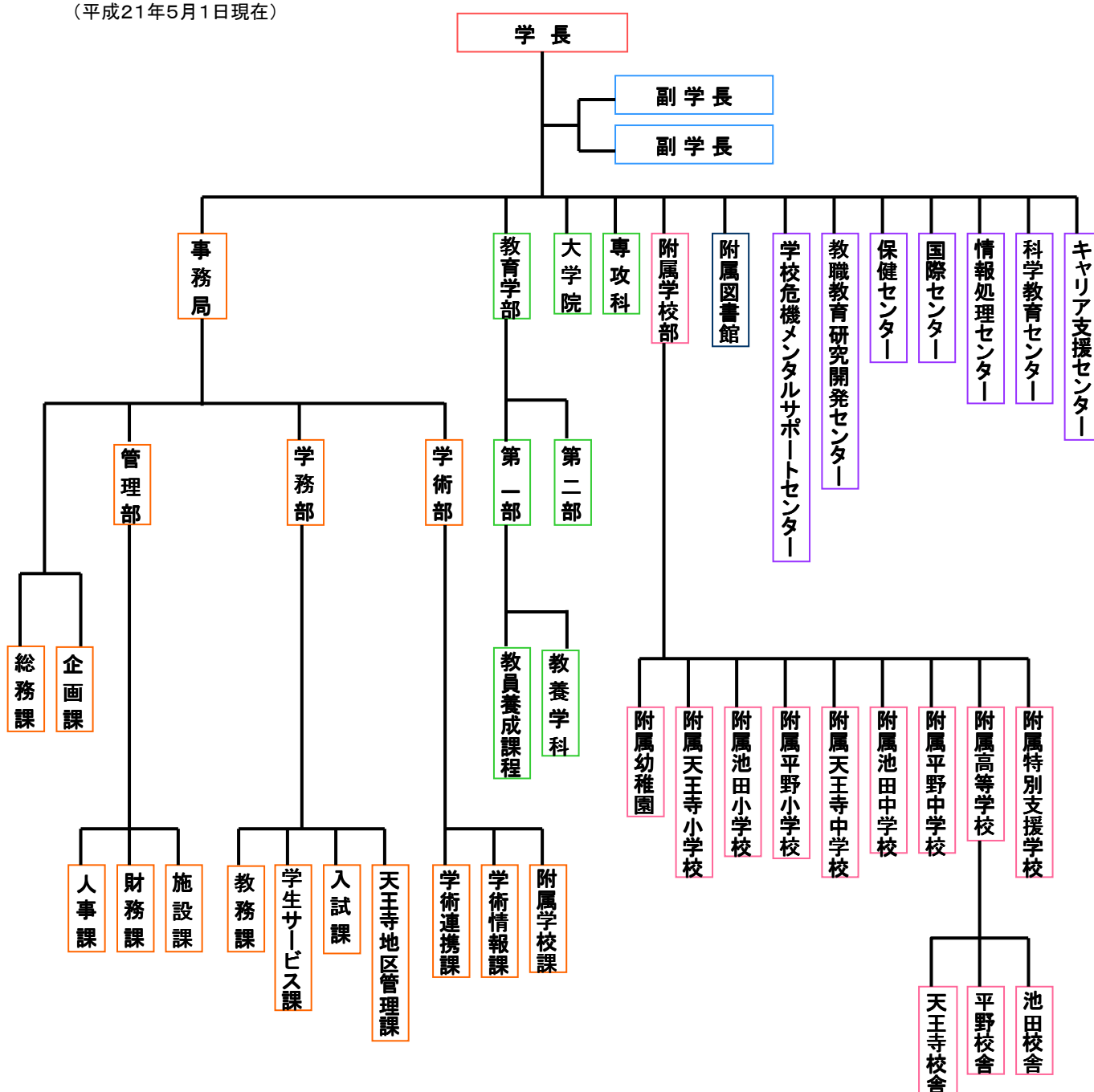
大学概要

大阪教育大学は、1874年(明治7年)8月に設置された教員伝習所にその起源を有する我が国有数の教員養成系大学です。

現在の大阪教育大学は、大阪府柏原市の金剛生駒紀泉国定公園内に約67万平米のメインキャンパスを配置し、教員養成教育と教養教育を通じて有為な人材を輩出する一方、国際都市として交通アクセスはもとより情報・産業の中核機能を有する大阪市内に天王寺キャンパスを擁し、大阪市天王寺区、平野区及び大阪府池田市の3地区に初等・中等教育並びに特別支援教育に対応した附属学校園とともに総合的な教育系大学をめざしています。

1. 機構図

(平成21年5月1日現在)



2. 職員数

■役員数（平成21年5月1日現在）

学 長	理 事	監 事	合 計
1	4	2(1)	7(1)

※()は内数で非常勤

■職員数（平成21年5月1日現在）

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	教 諭	養護教諭	事務職員	合 計
事 務 局								111	111
附属図書館								13	13
各センター	15	12	2					3	32
教育学部 第一部	122	84	13(2)	1					220(2)
教育学部 第二部	13	10						7	30
附属学校・園						248	10	17	275
合 計	150	106	15(2)	1		248	10	151	688(2)

※()は内数で外国人教師

3. 学生数

■教育学部（平成21年5月1日現在）

第一部 教員養成課程・教養学科

課程・学科	1年次	2年次	3年次	4年次	男	女	合 計
教員養成課程	502	520(1)	513	588	947	1,176	2,123(1)
教養学科	416(6)	434(9)	424(9)	514(11)	789	999	1,788(35)
合 計	918(6)	954(10)	937(9)	1,102(11)	1,736	2,175	3,911(36)

※()は内数で外国人留学生

第二部 小学校教員養成課程

課程・学科	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	男	女	合 計
1年次入学	43	42	40	43	52	115	105	220
3年次編入学			52	53	58	82	81	163
合 計	43	42	92	96	110	197	186	383

特別支援教育特別専攻科

専 攻	男	女	合 計
特別支援教育専攻	6	21	27

大学院教育学研究科

専 攻	1年次	2年次	男	女	合 計
学校教育専攻他17専攻	220(11)	251(10)	249	222	471(21)

※()は内数で外国人留学生

事業概要

本学は、その主目的である教員養成の他、幅広い教養と豊かな人間性を身につける教養学科を置き、加えて、それぞれを基礎に置く大学院を設置しています。

また、聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象とした特別支援教育特別専攻科を置いています。

1. 教育学部

本学教育学部には第一部[柏原キャンパス]・第二部[天王寺キャンパス・夜間]の教員養成課程と教養学科があります。

(1) 教員養成課程

① 第一部

卒業と同時に所属する課程・専攻に対応する教育職員一種免許状授与の所要資格を得られるように編成されています。

課程は、小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、特別支援教育教員養成課程、幼稚園教員養成課程、養護教諭養成課程があります。

② 第二部

天王寺キャンパスにおいて、昼間に学べない勤労学生等のために門戸を開いており、課程は小学校教員養成5年課程で、卒業と同時に小学校教員一種免許状授与資格を得られるように編成しています。

(2) 教養学科

現代社会の要望に応える幅広い教養を身につけることができる人材を育成することを目的として、7専攻を設けています。人間科学専攻、文化研究専攻、数理科学専攻、自然研究専攻、情報科学専攻、スポーツ・健康科学・生活環境専攻、芸術専攻

2. 大学院教育学研究科(修士課程)

本学の大学院教育学研究科(修士課程)の組織は教員養成課程を基礎に置く大学院と教養学科を基礎に置く大学院に大別でき、その各々に現職教員、社会人等を対象とする夜間大学院を設けています。

また、すべての専攻において、基礎となる一種免許状授与の所要資格を有している場合に限り、専門分野に対応する教育職員専修免許状授与の資格を得ることが可能です。

(1) 教員養成課程を基礎に置く14専攻

- | | | | |
|----------|----------------|------------|----------|
| ① 学校教育専攻 | ② 国語教育専攻 | ③ 社会科教育専攻 | ④ 数学教育専攻 |
| ⑤ 理科教育専攻 | ⑥ 英語教育専攻 | ⑦ 家政教育専攻 | ⑧ 音楽教育専攻 |
| ⑨ 美術教育専攻 | ⑩ 保健体育専攻 | ⑪ 特別支援教育専攻 | ⑫ 技術教育専攻 |
| ⑬ 養護教育専攻 | ⑭ 実践学校教育専攻(夜間) | | |

(2) 教養学科に基礎を置く4専攻

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------------|
| ① 国際文化専攻 | ② 総合基礎科学専攻 | ③ 芸術文化専攻 | ④ 健康科学専攻(夜間) |
|----------|------------|----------|--------------|

3. 特別支援教育特別専攻科

聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象として特別支援教育に関する専門教育を行い、この分野における教育を担当し得る教員の養成を目的に設置しています。

修了年限は1年で、すでに教員免許を有している者を対象としています。



■ 基本方針

大阪教育大学は、地球環境の保全が大きな問題であることを真摯に受け止め、教育研究及びあらゆる活動を通じて、地域を含めた良好なキャンパス環境の維持保全に努めます。

また、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成します。

このため、特に次の事項について推進して行きます。

1. 省エネルギー、廃棄物の抑制、資源の再利用、環境汚染防止等全ての環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
2. 美しく豊かなキャンパス環境の実現に向けた緑化整備、環境美化等について、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
3. 環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を制定し、大学の社会的責任を果たします。
4. この基本方針を達成するため、環境配慮目標を設定し、環境情報を提供するなど、全ての大学構成員により、環境保全に取り組みます。
5. この方針は、BBS(電子掲示板)をもって全構成員に周知するとともにインターネットのホームページを用いて、広く社会に開示します。

平成22年9月

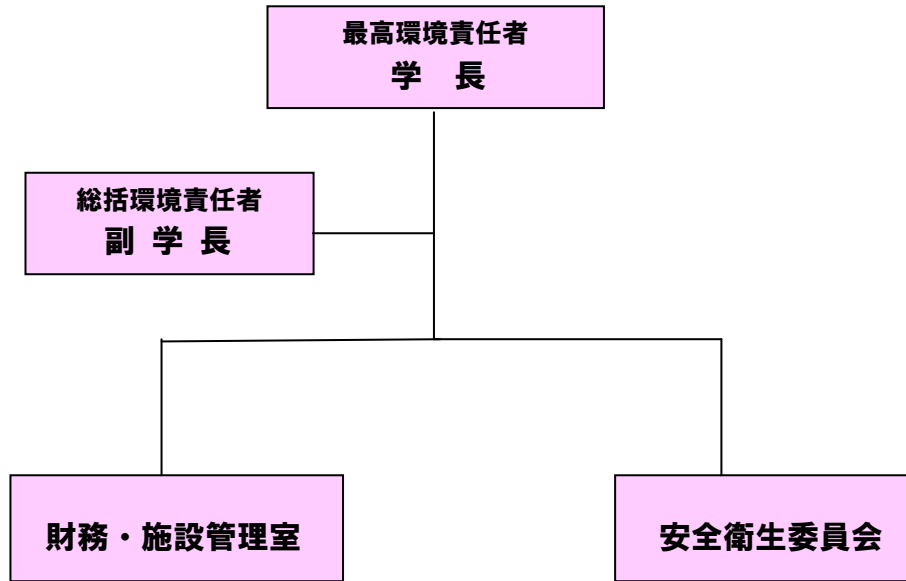
国立大学法人大阪教育大学
学長 長尾 彰夫

環境マネジメント組織

(平成21年5月1日現在)

本学には施設・環境に係わる計画、整備及び維持保全について、担当理事(副学長)を室長に教員、事務職員で構成する財務・施設管理室が審議検討を行っています。

又、教職員の危険並びに健康障害の防止等安全衛生については、担当理事(総務企画担当)を委員長に審議検討を行っています。



委員会等構成

財務・施設管理室	
担当理事(室長)	
管理部長	
指名職員	理事 1 名
	教員 1 名
	財務課長
	施設課長
	人事課長

安全衛生委員会(規程・第23条)	
担当理事(委員長)	
産 業 医	
衛生管理者(学長指名)	
危害防止担当者(学長指名)	
安全衛生経験者(学長指名)	
健康障害防止・メンタルヘルス対策(学長指名)	
学長指名委員 2 名	

環境配慮実施計画

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「喫煙対策」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めていきます。

平成21年度の実施計画、評価

自己評価の○は計画達成、△は一部達成、×は未達成を示します。

■ 省エネルギー・省資源の推進

項目	実施計画	自己評価
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/> エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を前年度比1%削減する。 <input type="checkbox"/> 太陽光発電設備の設置等自然エネルギーの導入を推進する。 <input type="checkbox"/> 掲示物等で省エネの啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 廊下・トイレ等の照明の自動点灯・消灯装置への更新、教室等の照明器具のHf型照明器具への更新、窓ガラスの遮光フィルムの貼付等省エネに配慮した機器、システムの導入を推進する。	○
水使用の節減	<input type="checkbox"/> 掲示物等で節水の啓発を行う。 <input type="checkbox"/> トイレの手洗い自動水栓の導入を推進する。	○

■ 廃棄物の抑制

項目	実施計画	自己評価
一般廃棄物の排出抑制	<input type="checkbox"/> 分別回収の徹底強化 <input type="checkbox"/> 大学生協のランチボックス等紙パックの回収 <input type="checkbox"/> 掲示によるマナー啓発活動の展開	○
用紙使用量の削減	<input type="checkbox"/> 用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 <input type="checkbox"/> 学内連絡や会議用資料の保存等を紙から電子記録媒体へ移行する。	○

■ 環境汚染防止

項目	実施計画	自己評価
実験廃棄物等の管理	<input type="checkbox"/> 学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。	○
実験廃棄物の廃棄	<input type="checkbox"/> 大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処分する。	○
実験用劇物等の管理	<input type="checkbox"/> 購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 <input type="checkbox"/> 大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は使用する毎に記載する。	○

■ 環境教育等の充実

項 目	実 施 計 画	自己評価
環境教育の充実	<input type="checkbox"/> 教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。	○
環境保全意識の啓発	<input type="checkbox"/> 春と秋、年2回のキャンパスクリーン週間を設け、自分達を取り巻く環境は自分達の手で護らねばならないという意識の芽生えを図る。	○

■ 地域貢献

項 目	実 施 計 画	自己評価
森林体験学習	<input type="checkbox"/> 柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施	○
グリーンアドベンチャー (社団法人青少年 交流協会)	<input type="checkbox"/> キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを廻る野外活動で近隣地域の住民にも開放している。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。	○
星空の観察会	<input type="checkbox"/> 星空を観察するという身近な方法で大気の汚れを実感し、大気汚染問題 に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」の実施。	○

■ 喫煙対策

項 目	実 施 計 画	自己評価
喫煙・分煙区域の指定	<input type="checkbox"/> 分煙対策として、禁煙区域の明示と喫煙場所の設置を行い、受動喫煙の弊害を抑制する。	○
啓発活動	<input type="checkbox"/> 喫煙者に対する健康意識の高揚や喫煙マナー向上に向けたPR活動を推進する。	○

■ 学内美化

項 目	実 施 計 画	自己評価
雑草の刈り取りとゴミの一斉収集	<input type="checkbox"/> キャンパスクリーン週間を年間2回設け、教職員と学生による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。またこの週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。	○
花壇の整備	<input type="checkbox"/> 計画的に整備する。	○

平成22年度の目標

■ 省エネルギー・省資源の推進

項 目	実 施 計 画
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/> エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を前年度比1%削減する。 <input type="checkbox"/> 掲示物等で省エネの啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 廊下・トイレ等の照明の自動点灯・消灯装置への更新，教室等の照明器具のHf型照明器具への更新する。
水使用量の節減	<input type="checkbox"/> 掲示物等で節水の啓発を行う。 <input type="checkbox"/> トイレの手洗い自動水栓の導入を行う。 <input type="checkbox"/> メーターを検針し，水使用量を把握して大きな漏水がないかチェックする。

■ 廃棄物の抑制

項 目	実 施 計 画
一般廃棄物の排出抑制	<input type="checkbox"/> 分別回収の徹底強化 <input type="checkbox"/> 大学生協のランチボックス等紙パックの回収 <input type="checkbox"/> 掲示によるマナー啓発活動の展開
用紙使用量の削減	<input type="checkbox"/> 用紙の両面利用を推進し，使用量の節減を図る。 <input type="checkbox"/> 学内連絡や会議用資料の保存等を紙から電子記録媒体へ移行する。

■ 環境汚染防止

項 目	実 施 計 画
実験廃棄物等の管理	<input type="checkbox"/> 学長統括の下，大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。
実験廃棄物の廃棄	<input type="checkbox"/> 大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき，実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が，実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下，廃棄処分する。
実験用劇物等の管理	<input type="checkbox"/> 購入者がその都度，薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 <input type="checkbox"/> 大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に，少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は使用する毎に記載する。

■ 環境教育等の充実

項 目	実 施 計 画
環境教育の充実	□教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。
環境保全意識の啓発	□春と秋、年2回のキャンパスクリーン週間を設け、自分達を取り巻く環境は自分達の手で護らねばならないという意識の芽生えを図る。

■ 地域貢献

項 目	実 施 計 画
森林体験学習	□柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施
グリーンアドベンチャ (社団法人青少年 交流協会)	□キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを廻る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をととして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。
その他	□星空を観察するという身近な方法で大気の流れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」の実施

■ 喫煙対策

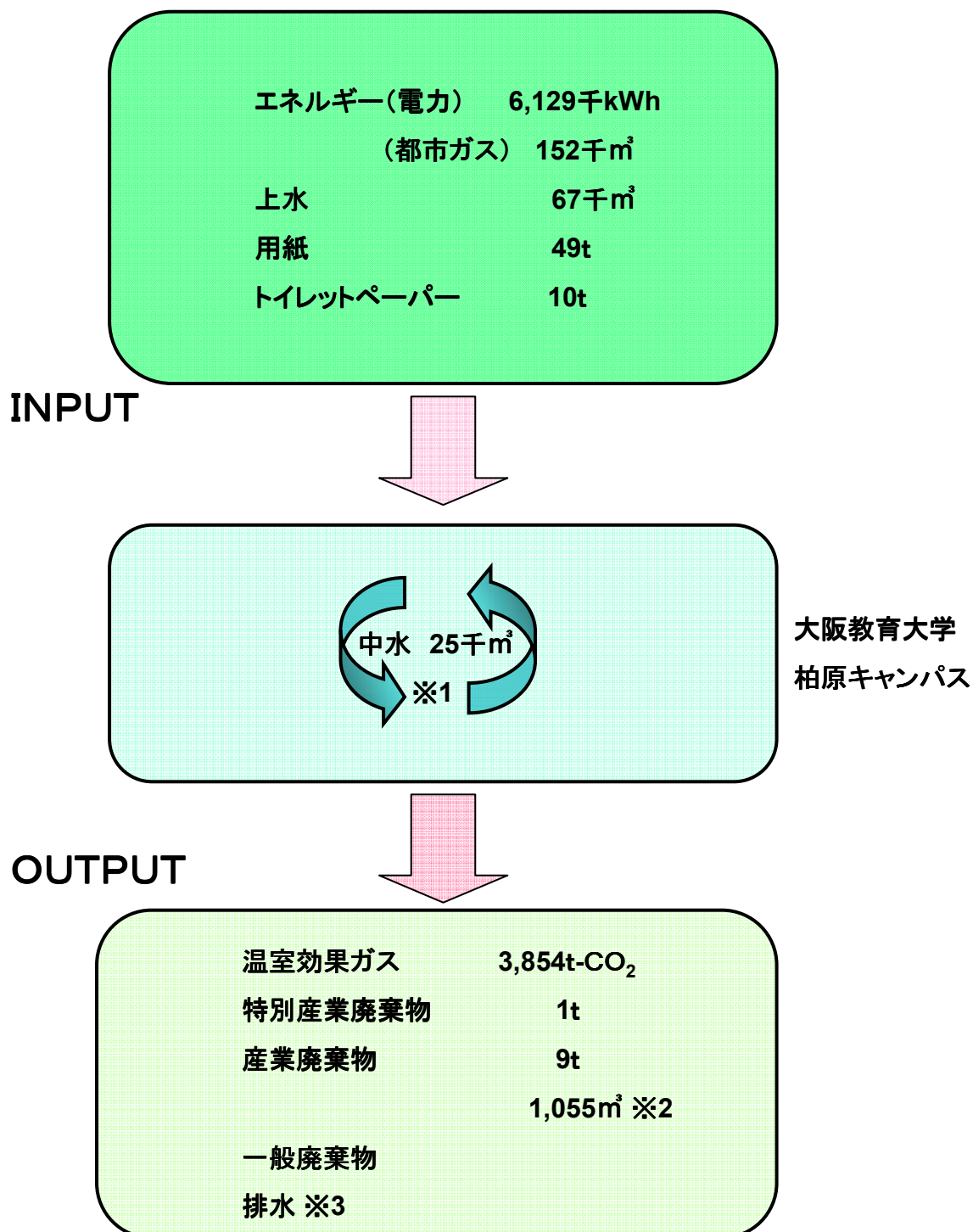
項 目	実 施 計 画
喫煙・分煙区域の指定	□分煙対策として、引き続き禁煙区域の明示と喫煙場所の整理を行い、受動喫煙の弊害を抑制する。
啓発活動	□喫煙者に対する健康意識の高揚や喫煙マナー向上に向けたPR活動を推進する。

■ 学内美化

項 目	実 施 計 画
雑草の刈り取りとゴミの一斉収集	□キャンパスクリーン週間を年間2回設け、教職員と学生による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。また、この週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。
花壇の整備	□計画的に整備する。
植栽の剪定	□定期的に植木剪定業者を雇い剪定する。

マテリアルバランス

マテリアルバランスとは、大学の活動に伴う環境負荷の全体像で、大学の活動のために投入する資源等をINPUT、大学の活動の結果排出する環境負荷をOUTPUTとして表したもので、平成21年度の大阪教育大学柏原キャンパスのマテリアルバランスは下記のとおりです。



※1.中水は排水を再生処理してキャンパス内で循環利用しています。(環境マネジメント活動の推進 中水の利用参照)

※2.産業廃棄物1,055m³は金属くず、木くず、廃プラスチック等を破碎した体積です。

※3.排水は実験排水、生活排水を排水処理施設で処理した後のもので、中水として利用しないものです。

環境負荷データ

温室効果ガス排出量, エネルギー使用量は, 空調に関わる割合が大きく, 冬季と夏季に増大しています。

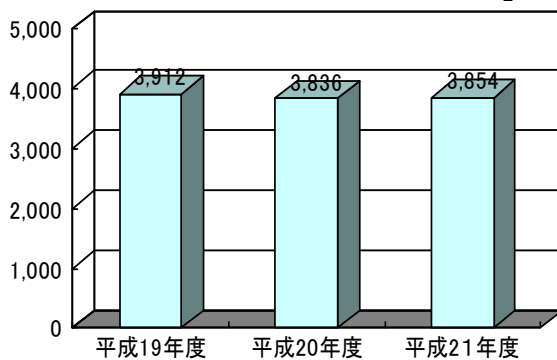
1. 温室効果ガス排出量

年度別温室効果ガス排出量(t-CO₂)

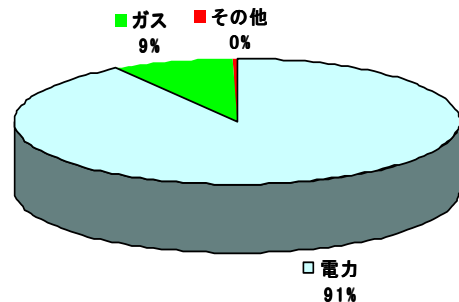
区分	電力	ガス	その他	合計
H19年度	3,575	330	7	3,912
H20年度	3,499	335	2	3,836
H21年度	3,499	346	9	3,854
前年度比	——	3.3%増	——	0.5%増

注:その他は, 柏原キャンパスで使用した灯油、ガソリンです。

(t-CO₂) 年度別温室効果ガス排出量(t-CO₂)



エネルギー源別温室効果ガス排出割合 (平成21年度)



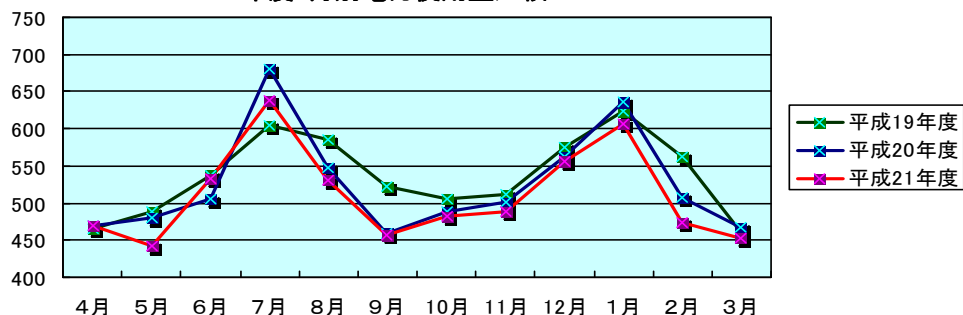
注:電力のCO₂排出係数は, 「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」第三条一項口で定める数値を採用しました。

2. エネルギー使用量

年度別電力・ガス使用量

区分	電力 (単位: kWh)	ガス (単位: m ³)
H19年度	6,440,862	145,281
H20年度	6,304,330	147,120
H21年度	6,128,727	151,771
前年度比	2.8%減	3.2%増

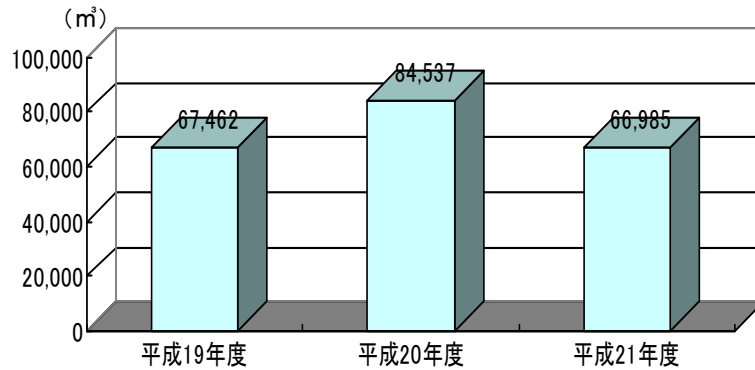
(千kWh) 年度・月別電力使用量比較



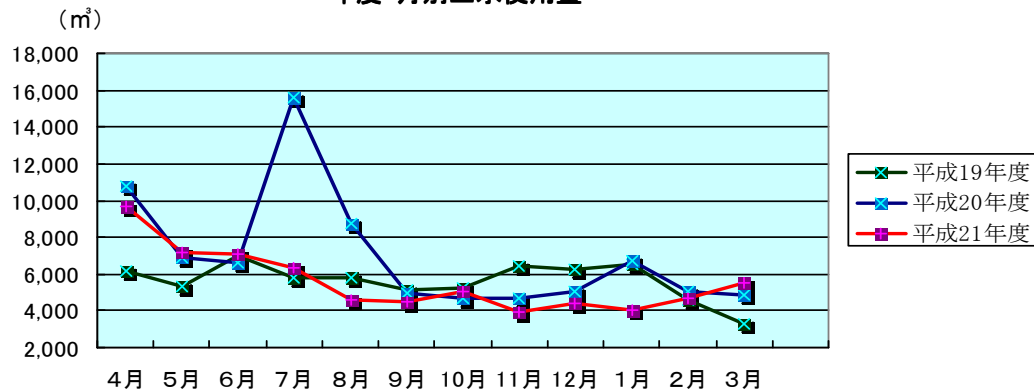
3. 上水使用量

掲示などの啓発活動や、自動水栓の導入やトイレの擬音装置の導入により、生活水の節水に努めましたが、平成20年度使用量はプールの水質維持のために水の使用量が大きく増加し、前年度比25.3%増となりました。そこで、大阪教育大学ではプールの水質維持のために必要最小限の水使用量とするようにプールの水質維持管理マニュアルを作成し対応した結果、前年度に比べて20.8%減少しました。

年度別上水使用量



年度・月別上水使用量



4. 排水水質

排水処理施設で処理した水は定期的に水質測定を行っています。平成21年度のCOD※1、窒素、リン、SS ※2、大腸菌群数濃度等は下表のとおりで、基準値を下回っていました。

平成21年度水質測定結果

測定物質名	単位	平均値	最大値	基準値
COD	mg/l	8.2	14.0	15
窒素	mg/l	34.3	76.0	120
リン	mg/l	2.1	4.1	16
SS	mg/l	6.6	36.0	40
大腸菌群数	個/cm ³	1.1	10.0	3000

※1. COD: 化学的酸素要求量のこと、水中の有機物等を酸化剤で酸化する時に消費される酸化剤の量を酸素の量に換算したもので、有機物による汚濁状態を測る指標です。

※2. SS: 浮遊物質のこと、水中に浮遊又は懸濁している粒子状物質のことです。

省エネルギー・節水対策

1. 省エネルギー

電灯スイッチに節電ステッカーを貼付，また，ビル管理空調システムを導入して空調利用状況を集中管理し，適正制御を行っています。さらに，エアコンスイッチに簡易温度計を貼付しています。



2010・2

経済産業省より「エネルギー管理指定工場現地調査」
が実施され，非常に高い評価をいただきました。

☆「エネルギー管理指定工場現地調査」とは・・・
対象事業場を訪問し，エネルギーの使用の合理化の状況について，省エネ法による管理標準の設定状況やその遵守状況などを調査するもの。

2. 節水

トイレ等の水回りに節水ステッカーを貼付しています。



3. 中水の利用

排水処理施設で生活排水を浄化し、それを中水としてトイレの小便器、大便器の洗浄水や植栽等の散水に利用しています。

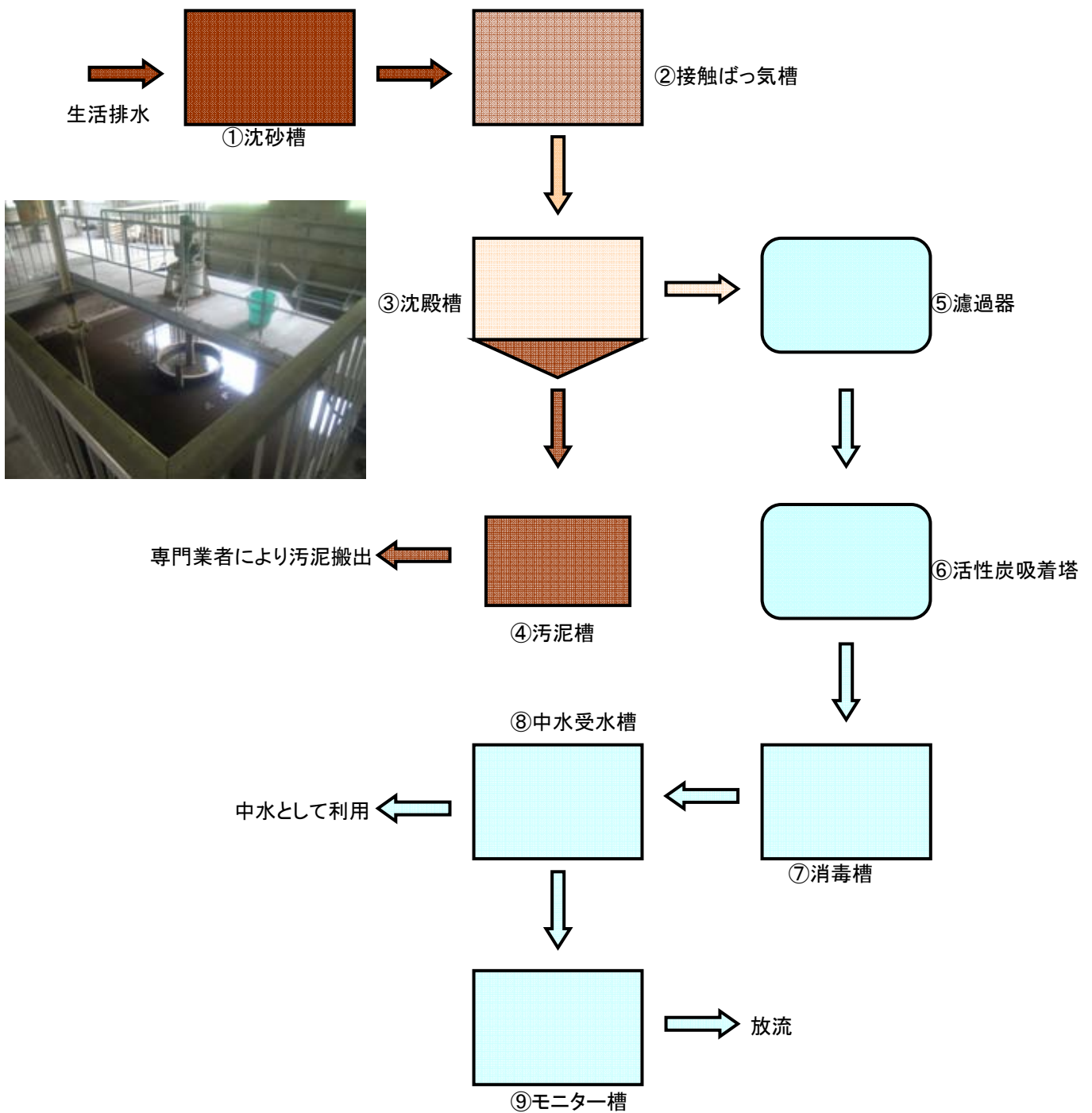
◎中水について

排水を再生処理してトイレの洗浄水や散水に利用する水を中水といいます。大阪教育大学柏原キャンパスでは、排水処理施設で生活排水を再生処理して中水とし、学内で水を循環利用しています。余った中水は学外の公共用水域へ放流しています。



【生活排水処理フロー図】

処理方式: 接触ばっ気法



- ①沈砂槽ではスクリーン等でゴミ等の浮遊物を除去, 砂等を沈殿除去します。
- ②接触ばっ気槽では微生物により有機物を分解処理します。
- ③沈殿槽では汚泥を沈殿させます。
- ④汚泥槽では汚泥を溜めます。
- ⑤濾過器では水の中の微小汚濁物を除去します。
- ⑥活性炭吸着塔では活性炭により臭気, 着色物質等不快物質を吸着・除去します。
- ⑦消毒槽では塩素で殺菌, 消毒します。
- ⑧中水受水槽の水はポンプで貯水槽まで汲み上げ中水として利用します。
- ⑨モニター槽では定期的に専門業者が排水の成分を調査しています。



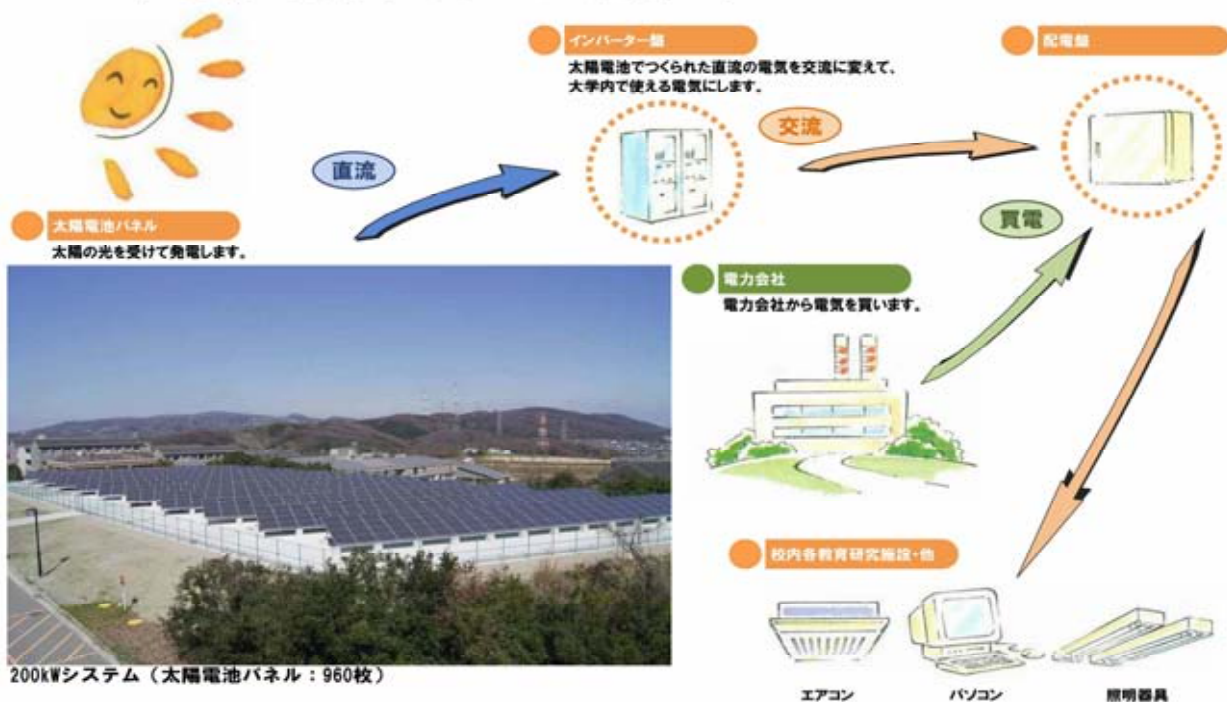
①の水 ③の水 ⑨の水

※③の赤い粒は微生物です。

■ 太陽光発電システムの導入

環境に優しいクリーンエネルギーの使用を促し、地球環境保全を積極的に推進するエコな大学をめざします。

大阪教育大学 太陽光発電のシステム



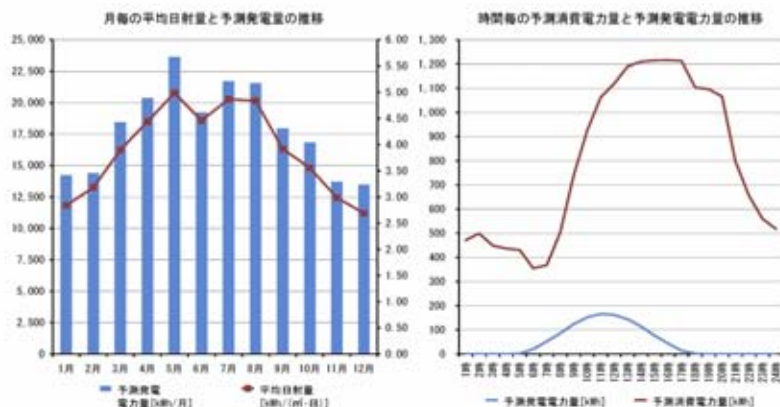
太陽光発電シミュレーション

太陽光発電システムの太陽電池容量 **200.0 kW**

年間予測発電電力量： **215,366 kWh/年** 年間予測消費電力量： **6,128,727 kWh/年**

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均日射量	2.84	3.18	3.90	4.44	4.99	4.46	4.87	4.84	3.92	3.56	2.99	2.69
予測発電電力量	14,206	14,372	18,430	20,347	23,620	19,219	21,702	21,554	17,942	16,830	13,689	13,455
予測消費電力量	605,645	474,561	452,701	469,262	441,388	532,053	638,500	530,833	457,372	481,550	489,097	555,765

平均日射量（各月）：kWh/(m²・日) 予測発電電力量（各月）：kWh/月 予測消費電力量（各月）：kWh/月



環境貢献の目安

- 石油削減効果（年間）**
48,888.1 リットル/年
 ・ドラム缶（200リットル）換算
244.4 本分/年
- 二酸化炭素削減効果（年間）**
 炭素換算 **18,472.6** kg-C/年
 二酸化炭素換算 **67,732.7** kg-C/年
- 乗用車走行距離削減量換算**
288,224 km/年
 二酸化炭素削減効果（年間）の乗用車走行距離削減量換算値です。
- 森林面積換算**
189,657 m²
 ・正方形にした場合の
 一辺の長さは **435** m
 ・大阪教育大学の
 サッカー場 **22.3** 個分
- 硫黄酸化物・窒素酸化物**
 硫黄酸化物 **51.688** kg/年
 窒素酸化物 **55.995** kg/年

■廃棄物の分別徹底とリサイクル

1. 一般廃棄物の分別収集

要所に分別ゴミ収集ボックスを配備して、分別収集を徹底し、委託清掃業者による毎日の清掃時に、委託清掃業者が取りまとめて集積場に投棄しています。



2. 特別管理産業廃棄物

特別管理産業廃棄物に該当する廃油、廃酸、廃アルカリ等については、随時産業廃棄物管理票(マニフェスト)により処理を業者委託しています。

また、ポリ塩化ビフェニル廃棄物(PCB廃棄物)は、PCB保管庫に保管しており、環境省「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画」に基づき委託処理する予定です。

3. 産業廃棄物

酸・アルカリ等の実験廃液やそれによる汚泥、廃油、また、廃プラスチック・金属類等の産業廃棄物は鍵付きの厳重管理格納庫を設置し、集積状況を見て随時、産業廃棄物管理票(マニフェスト)により処理を業者委託しています。

4. その他のゴミの収集

冊子や紙類等は全構成員に回収日と収集場所を周知徹底し、リサイクル業者に回収処理を委託しています。粗大ゴミは鍵付き格納庫にコーナーを設け、リサイクル可能な物と不可能な物に分別し、学内再利用する物は学内ネットで広報し、必要者の再利用に供しています。

また、不可能な物については産業廃棄物管理票(マニフェスト)により処理を業者委託しています。

■化学物質(実験用劇物)の適正管理

本学の化学物質(実験用劇物等)の管理は、学長統轄の下に大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会をおき、各種法規制を遵守し適正に管理しています。

その量、危険度に応じて、屋外と室内(研究・実験室)に設置した管理庫に保管し、それぞれに管理簿(受払簿)を置き、厳重に鍵をかけ、外部への流出等を防止しています。



■分煙対策

健康を害する『受動喫煙(他人が吸うタバコの煙を吸わされることと定義されている)』の防止については、健康増進法第25条において『学校、体育館～(中略)～事務所、官公庁施設、飲食店その他多数の者が利用する施設を管理する者は、受動喫煙を防止するために必要な措置を講ずるよう努めなければならない』と規定され、さらに、厚生労働省から平成15年4月30日付け健発第0430003号を以て、その対策と措置を徹底するよう指示されています。

これを受けて本学では、指定喫煙場所の整理や喫煙マナー向上の周知徹底など「受動喫煙防止対策」を講じ、学生並びに教職員の健康増進に努めています。



☆ 学生がデザインした「構内禁煙」と「指定喫煙場所」のステッカーを構内各所に貼付しています。

■放置オートバイ・自動車等対策

本学は通学通勤に対する公共交通機関に恵まれた条件とは言い難くまた、最寄り駅からキャンパスまでのアプローチも高低差が激しく、原動機付自転車、オートバイ、自動車を利用する通学・通勤者が多くなっています。

また、キャンパス内施設間の移動にこれらを使用する者も多く、指定エリア以外での駐輪・駐車には厳格に対応しており、また、増え続けている車輌に対応するため、順次整備を進めています。

よって、毎年、春と秋に大阪教育大学学生支援実施委員会が中心となり、関係教職員により、交通安全指導を含めて、指導にあたっています。



■グリーン購入の推進

本学のグリーン購入は、国等による環境物品等の調達に関する法律(平成12年法律第100号)を遵守し、毎年度当初に本学独自の特定調達物品(グリーン)の調達方針・目標をたて、公表して実施するなど、積極的に推進しています。



■ 構内緑化の推進・環境教育活動

本学の緑化の推進と保全是、主に財務・施設管理室が主催し全ての学生・教職員を対象としたキャンパスクリーンと、自然研究講座の教授が主催するプロジェクト『教材園を活用したフィールドワーク実習および体験型授業の実践研究』による環境教育活動により推進しています。

1. キャンパスクリーン

年間2回の『キャンパスクリーン週間』を企画し、教職員並びに学生の参加を得て、草刈と構内清掃を実施し、環境保全に努めています。また、担当職員の日常構内巡回により、随時、雑草の草刈や張りすぎた枝の伐採を行っています。



2. プロジェクト『教材園を活用したフィールドワーク実習および体験型授業の実践研究』

教材園における、実習・演習を企画・運営し、植物(生き物)の栽培をとおして、生命の大切さと、その生命を育む自然環境の大切さを学ばせる環境教育を実践しています。

毎年授業において、多くの学生が利用しており、附属特別支援学校(高等部)の生徒も農場実習として利用し、職業的訓練とともに恵みを育む自然の大切さを学んでいます。



3. 花壇の整備

花壇を計画的に整備し、季節毎に花を咲かせています。



4. アメニティスペース化

平成21年12月から遊休スペース(約1,200㎡)を整地し、学生憩いのスペース、地域との交流の場としての活用を開始しました。



大阪教育大学大学生協における環境への取り組み

■複合店におけるグリーン購入の推進

複合店文具品コーナーでは、グリーン購入法適合商品を中心に取り扱っています。



全商品とも単品購入時に、レジ袋使用の削減を呼びかけています。

■テイクアウト弁当容器にリサイクル紙容器「ホッかる」を採用

「ホッかる」は紙とフィルムでできており、紙とフィルムは簡単に分別できる構造で紙部分は再生紙(主にトイレットペーパー)としてリサイクルが可能である。昨年度に引き続き、この「ホッかる」弁当容器をテイクアウト弁当容器として採用し、レジ袋に入れずに販売しています。



■食堂全店舗における食器洗浄機用洗剤に環境へ配慮した洗剤を採用

食堂4店舗4ヶ所の洗浄機において、食器洗浄機用洗剤に苛性分やリン分を含まない洗剤を採用しています。

また、厨房内の節水および節電を心掛けるようスタッフ全員に指導しています。

柏原キャンパスマップ





**OSAKA KYOIKU
UNIVERSITY**